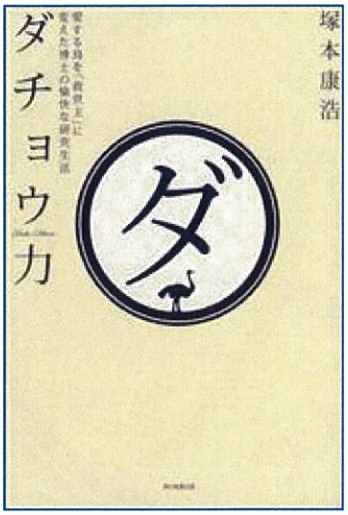
【書評倶楽部】インスパイア取締役ファウンダー・成毛眞　(1/2ページ)

2009.4.18 08:05

このニュースのトピックス：感染症



『ダチョウ力』塚本康浩著

■みなが楽しめる知的冒険活劇

ひとことで言い表すと、大人も子供も楽しめる、「ダチョウ博士」による知的冒険活劇だ。鳥好きな少年が、長じてダチョウにのめり込み、ついにはそのダチョウで世界を救おうとする物語である。

とはいってもフィクションではない。著者は京都府立大学の教授であり、ダチョウを利用した超低コストの鳥インフルエンザ抗体を開発した人物だ。

本書によれば、ダチョウという動物はじつに「アホ」であり、怪我(けが)や病気には異常に強く、年に100個も巨大卵を産み、時速60キロのスピードで走りまわるというのだ。

著者はこの凶暴とも思われるダチョウをただただ飼育してみたいがために、研究テーマを見つけ出し、ついには驚くべき成果を出してしまう。

いかにもネアカな関西人研究者による楽しい科学読み物だ。これからの研究テーマとして、納豆にダチョウ抗体を混ぜた商品開発やら、ダチョウの卵の殻を使ったアロマスタンドやら、ダチョウオイルの美容液やら、本気とも冗談ともつかないものまで持ち出して読者をくすぐる。

【書評倶楽部】インスパイア取締役ファウンダー・成毛眞　(2/2ページ)

2009.4.18 08:05

このニュースのトピックス：感染症

ところで、ここしばらく、建前だけは立派だが、愚かで志もない政治家と官僚と経済人が、自らの失敗と世界不況の中でのたうちまわっている。彼らの共通項は東京であり文系ということだ。

ところが、その対極である非東京と科学の分野ではヒーローが目白押しだ。昨年の日本人ノーベル賞受賞者は4人のうち3人が非東京人だ。動物園も非東京が元気いい。世界をリードするiPS細胞も非東京で生まれた。

そろそろ、日本は明るい科学者たちに舵(かじ)取りを任せるべき時期にきているような気がする。

それにしても本書は本文はもちろんだが、タイトルも表紙も装丁も、帯までも素晴らしい出来である。(朝日新聞出版・1365円)

◇

【プロフィル】成毛眞

なるけ・まこと　昭和30年生まれ。元マイクロソフト日本法人社長。投資などを手掛けるインスパイアを設立。